

10月の歴史カレンダー

★10月に何が起きたか

1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日
<ul style="list-style-type: none"> ◆水俣市長ら、環境庁長官、日本神経医学会総会など関係機関に「水俣病」の病名変更を陳情 (1978/S48) ◆熊本県の認定審査「月間150人検診、120人審査」体制発足 (1977/S52) 	<p>平和会、解決案受け入れ回答 (1995/H7)</p>	<p>茂道水俣病同志会、解決案受け入れ回答 (1995/H7)</p>		<ul style="list-style-type: none"> ◆チッソ、東京地裁の和解勧告の受け入れを表明 (1990/H2) ◆環境省が新保健手帳について住民説明会を開始 (7日までに) (2005/H17) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆新日窒附属病院の実験で「ネコ400号」が発症 (1959/S34) ◆丸島・百間水路ヘドロ処理事業着工 (1986/S61) ◆水俣漁民未認定患者の会、解決案受け入れ回答 (1995/H7) 	
8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日
<p>チッソ・患者互助会第一回補償交渉 (1968/S43)</p>		<p>社会党の環境部会のメンバーらが水俣視察一未認定患者団体らと意見交換 (1994/H6)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆鹿児島県公害健康被害認定審査会設置 (1974/S49) ◆水俣湾のヘドロ処理事業始まる。汚染魚封じ込めの仕切り網設置 (1977/S52) 	<p>体育の日 福岡高裁、水俣病第三次訴訟第一陣控訴審で和解勧告。行政の解決責任を指摘し、政治的判断を促す。県は勧告受諾 (1990/H2)</p>	<p>新保健手帳の申請受付開始 (熊本県・鹿児島県・新潟県) (2005/H17)</p>	<p>水俣病公式確認50年創作舞台「水俣は生きて」が上演される (2006/H18)</p>
15日	16日	17日	18日	19日	20日	21日
<ul style="list-style-type: none"> ◆市奇病対策委員会、12人(うち死亡3人)を水俣病と決定、患者計64人 (1957/S32) ◆関西訴訟最高裁判決で国と熊本県の行政責任を認める (2004/H16) 	<p>福島議二代議士の仲介により、チッソ水俣工場正門前封鎖を解除 (1998/S63)</p>	<p>県漁連主催、県漁民総決起大会。新日窒に交渉を申し入れたが、拒否され、工場に投石騒動、警官が出動。(第二次漁民紛争はじまる) (1959/S34)</p>	<p>福岡地裁、水俣病福岡訴訟で和解勧告 (1990/H2)</p>		<p>熊本県水俣湾環境モニタリング委員会、1999年度前期調査で調査対象7魚種の水銀値が国の規制値を下回ったことを確認 (1999/H11)</p>	<p>通産省、新日窒に対し①アセトアルデヒド製造工程排水の水俣川河口への放出を即時中止し百間港に戻せ②排水浄化装置の年内完成を指示 (1959/S34)</p>
22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日
<p>水俣病補償協定に基づく患者医療生活保障基金運営委員決定一熊本県知事、水俣市長、チッソ水俣本部長、患者代表7人の計10人 (1973/S48)</p>			<p>熊本県水俣湾魚介類対策委員会、指定魚種を4魚種から2魚種とする (1994/H6)</p>	<p>厚生省厚生科学研究所「科学毒物として、セレン、マンガン、その他タリウムが疑われる」と発表 (1957/S32)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆水俣湾公害防止事業第2工区 (明神地区) 着工 (1957/S57) ◆水俣湾埋立地で約700人が鎮魂と地域再生の願いを炎に託した「火のまつり」を開催 (1996/H8) 	<p>関西訴訟提訴。(原告大阪在住申請者ら40人) (1982/S52)</p>
29日	30日	31日				
<p>政府、相次ぐ裁判所の和解勧告について、現時点で応じることは困難との見解を発表した (1990/H2)</p>	<p>全国連、解決案受け入れ回答一5団体の受諾回答出そろった (1996/H7)</p>					